

全国協議会 ニュース

2022年12月1日発行 第364号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

「東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2022」開催

11月12日(土)・13日(日)の2日間、東京雪祭(主催：一般社団法人SNOWBANK 代表 荒井善正)が東京・代々木公園で開催されました。今年で12回目の開催となります。新型コロナウイルス感染拡大がまだ収束しない中、輸血・骨髄提供者を待つ患者さんのために奮闘された主催者・スタッフの皆さま、ボランティアの皆さま、本当にありがとうございました。

初日は暑いくらいの秋晴れ、翌日は朝から強風、昼過ぎには小雨という天候の中、たくさんの来場者がありました。全国協議会では献血併行型登録会とブースでの啓発活動を行いました。

関東近県の加盟団体(埼玉骨髄バンク推進連絡会、千葉骨髄バンク推進連絡会、骨髄バンクを支援する東京の会、神奈川骨髄移植を考える会)の皆

さまにご協力いただき、2日間での骨髄ドナー登録者102人(目標111人)、献血者471人(目標333人)となりました。回を重ねたからか既登録が多くドナー登録者こそ目標に達しませんでした。献血車4台が配置され、予約システムも導入したことからか献血者は大きく目標を超えました。献血者・ドナー登録者はたくさんの協賛企業の



ブースを回りノベルティを受け取っていました。『楽しいから始まる社会貢献』キッカケは色々。登録することが患者さんの希望です。SNOWBANKで登録し提供された方、是非ご連絡ください。喜びを紙面で共有させていただきたいです。

今年はHEROs パラスポーツパークも開催され、競技用車いすに乗って鬼ごっこや車いすバスケのミニゲーム等が行われていました。

状況ではありますが、東京都内で安全に「雪」を感じることができるイベントで、メインステージからの視認性もよい場所にブースがあり、初めて献血に来られた方も多く、より認知度を高めることができると思いました。

(骨髄バンクを支援する東京の会 小山内直樹)

若年層が多い貴重な登録会

11月12日(土)、13日(日)の両日、代々木公園イベント広場にて開催された「東京雪祭2022」に12日のみですが、初めて説明員として参加しました。

私にとって、献血バス併行での骨髄バンクドナー登録会にて説明員をするのは数年ぶりということもあり、会場に到着した直後は、近年の説明項目の改訂などについていけるか若干不安なところがありました。

しかしながら、首都圏1都3県の各

加盟団体から多くのボランティアスタッフ及び説明員が参加して下さったこともあり、2日間で136人の方が説明を聞いて下さり、さらに102人(初日は42人)もの方に新規ドナー登録をしていただくことができました。

今回は骨髄ドナー登録の目標人数111人には届かなかったものの、既に登録されている方が全体の2割以上、また、10代~20代の新規登録者が1/4以上という、とても貴重な登録会だということを再認識できました。

まだコロナ禍を脱したとはいえ

初めて参加して

2022年4月に全国協議会に入職し、今回初めてこちらのイベントに参加させていただきました。

夏を過ぎる頃からイベントについて事務局内でちらほらと耳にしていたのですが、「渋谷で雪を降らせる」「コロナ禍であっても若者の献血人数とドナー登録者数が年々増加している」と

いった驚きの内容でしたので、一体どんなイベントなのかと当日を楽しみにしていました。協議会でも準備を進め、事務局では子ども向けのゲームや景品、陶器販売など小さいお子さんから大人まで楽しめる出展内容としました。

そして、開催日当日。雪をどんな風に降らせてゲレンデをつくっているのかしっかりと見学し(1mほどある氷の(2面上部へ続く))

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(11月15日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2022年10月末現在)

	9月	10月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,862	3,840	542,926	908,627
患者登録者数	185	201	1,682	65,317
移植例数	90 (23)	89 (16)	—	27,136 (1,718)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■10月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/1,121人、献血併行型集団登録会/2,613人、集団登録会/38人、その他/68人

■10月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,773人/20代 86,673人/30代 136,310人
40代 218,932人/50代 97,238人

■10月の20歳未満の登録者475人

■10月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,667件(国内ドナー→国内患者)

(注)数値は速報値のため訂正されることがあります。



(1面からの続き)
 ブロックを100個削って大きいホースから雪を降らせていました！意外にも雪を削る以外は人の手による地道な作業でした)、開会後はブース運営に努めました。埼玉の会、千葉の会、東京の会、神奈川の会からも総勢23人のボランティアの方が参加され登録説明やブース運営に尽力されました。

多くの方が来場されて、結果は2日間で献血者471人、骨髄ドナー登録102人という驚異的な数字でした。主催者である荒井 daze 善正さんの社会課題を解決しようとするエネルギーや、ドナー登録に対するアプローチに刺激を受けたイベントとなりました。
 (事務局 井口敦子)

支援者訪問 (募金箱：すし善／茅ヶ崎)



茅ヶ崎、ラチエン通りの中ほどにある地元の人達に愛される店、「すし善」。かの作家、開高健が近所に住んでいて、足しげく通ったお店です。今

は2代目のご主人がカウンターの中で腕を振っています。「開高さんはいつもその席に座っていらしたんですよ」。食通で知られた開高健がひいきにした寿司屋さんということで最初は構えましたが、値段も手ごろで、気さくなご主人が醸し出す雰囲気ので店の中はいつも和やかな空気に満たされています。募金箱の設置のお願いを恐る恐る申し出た時も「狭い店ですが、お役に立てるのであれば」と快く引き受け

て下さいました。お酒の冷蔵庫の上、という目立たない場所に置かれている募金箱ですが、たまに訪れるといつの間にかお客様の善意が貯まっています。「この前も骨髄移植を受けたというお客さんが募金箱を見つけて感激していましたよ！」とのことでした。募金箱のことはばかりになりましたが、ご主人の握るお寿司は季節感があふれ、端正な姿でお客さんを迎えてくれます。手軽でおいしい、だから人が集まる、だから募金が集まる、という単純な理由に思わず納得しました。

第8回ちやまちキャンサーフォーラムで 献血併行型骨髄バンクドナー登録会実施 血液がんフォーラム同時開催

第8回ちやまちキャンサーフォーラムオンライン2022が、11月19日(土)、20日(日)に開催されました(ちやまち：茶屋町は毎日放送の所在地です)。今回は血液がんフォーラム2022(NPO法人キャンサーネットワーク・ジャパン、一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン共催)もオンラインで同時に開催され、全国の血液がん治療に関わる患者・家族・医療従事者・一般向けの最大規模のオンラインフォーラムでした。

20日(日)は、ちやまちキャンサーフォーラム2022で「もっと知りたい骨髄移植～現役Jリーガーが語る白血病治療～」として、アルビレックス新潟の早川史哉選手(22歳の時に急性リンパ性白血病を発症し、骨髄バンクを介し骨髄移植を経験)が体験談を話されました。

14～16時まで毎日放送(MBS)前

で献血と骨髄バンクの登録会があり、早川選手から著書「そして歩き出す」を寄贈いただき、骨髄バンクの登録をして下さった方に贈呈しました。

毎日放送アナウンサーの高井美紀さんが献血呼び掛けに参加くださったり、骨髄提供経験がある山中真アナウンサーが献血をしてくださいました。

山中さんは本年5月、全国骨髄バンク推進連絡協議会の「2022全国骨髄バンクボランティアの集い」にオンライン出演されドナー体験を話されました。

献血活動は2時間と短い時間でしたが、毎日放送関係者の方のご協力もあり、沢山の方にお越しいただき、7の方に骨髄バンクにドナー登録いただきました。

毎日放送は毎年この時期に献血を行っています、是非来年も骨髄バンク登録会併行開催をとお願ひしました。誠にありがとうございました。



一生懸命献血を呼びかけられた高井アナウンサー(右から二番目)



骨髄提供経験者の山中アナウンサー(右) 赤木(中央)

(NPO 法人関西骨髄バンク推進協会 赤木晴香)
 (毎日放送の公式HPでフォーラムの内容が閲覧できます <https://www.mbs.jp/joc/forum2022/>)

骨髓バンク支援チャリティーコンサート第29回ピアノ三重奏の調べ

11月19日(土)さいたま市北浦和にある日本バプテスト教会にて、骨髓バンク支援チャリティーコンサート第29回ピアノ三重奏の調べが開催されました。コロナ禍のため、開催が見送られていましたが、今年は、感染対策をしての3年ぶりの開催となりました。

埼玉の会では、20年近く前から2010年に亡くなった板橋成さんの紹介で、この教会でチャリティーコンサートを開催してきました。音の響きが良く、教会という神聖な場所で素敵な音楽を体験できることで好評となっています。

当日は、秋晴れの澄んだ空気に包まれた絶好のコンサート日和となりました。朝早くから、当会のメンバーが会場の準備を進め、お客様の来場を待ちました。

私は、受付を担当しましたが、お客様の中からは、「チラシを拝見して、

聴きたいと思って来ました。」「是非、協力したいと思っていました。」など、うれしい言葉も聞かれました。コロナ禍なので、入場者が少ないのではと心配していましたが、次から次へと多くの方に来ていただきました。

コンサートは、高土滋子副会長の司会により、笠原慶一会長の挨拶から始まり演奏へと続きました。私は、毎年なのですが、受付&会計担当のため、ホールの外で、ドア越しに聞こえる静かなそしてときに激しい音色に心と耳を傾けていましたが、サン＝サーンスの「白鳥」など聞きなれた曲も聞こえてきて、生の音に心が揺さぶられました。

コンサートの合間には、ミニシンポジウムとして日本骨髓バンクから^{おおうえ}夏生^{なつき}さんに来ていただき、骨髓バンクの現状と課題を、来場者にわかりやすく説明していただきました。多くの方



が、うなずきながら耳を傾けていたのが印象的でした。

コンサートの最後には、アンコールに続き、手話の会の皆さんといっしょに、みんなで「翼をください」を合唱、最後はお客様の拍手が鳴りやまず感動的なコンサートになりました。

参加者からは、「やっぱり生演奏は良い。」「曲の解説が良かった。」などの声が聞かれました。ずっとボランティアで演奏をしてくださっている三戸素子さん、小澤洋介さん、高田匡隆さんを始め、当会のスタッフ、足を運んでくれたお客様の心がひとつになった素敵な1日となりました。

(埼玉骨髓バンク推進連絡会 山中孝之)

プルデンシャル生命で講演会 登録会も急遽開催



プルデンシャル生命保険株式会社では、毎年「インターナショナル・ボランティア・デー」を開催し、社員やその家族が全国各地域で様々なボランティア活動に参加しています。

10月20日(木)、新潟支社では「骨髓バンクを知ろう!」ということで、ミニ講演会を開催することになり招かれて話をさせていただきました。コロナ禍もあり数年ぶりに皆さんの前で話をしたら、とても緊張し声が震えてしまいました。やはり何回やっても慣れません。

息子の子どもの頃から入院する少し前の元気だった頃の映像と、病気で顔が変わってしまい、亡くなる前日までの映像を流し、病気でこんなに変わってしまったと話をしているうちに、今までにあまり無いことなのですが、その時の状況が鮮明に蘇り感極まって泣

いてしまいました。私のそんな様子を見て涙を流して話を聞いてくれている方もたくさんいらっしゃいました。

骨髓バンクに患者登録をしたらドナーさんが見つかり、「これで息子は生きられる!」と本当に嬉しかったです。18歳11ヶ月で亡くなったのですが、18年と言う年月より、骨髓移植をして亡くなるまでの42日間は、濃厚な親子関係を持つ事ができ、息子だけの母親になっていました。ドナーさんには本当に感謝しています。

嬉しいことがありました。私の話を聞いてドナー登録をしたいという方が7人もいらっしゃいました。それで10

月24日(月)に急遽説明会を行うことになりました。当日は、ありがたいことに人数が10人に増えていました。息子が亡くなってすぐに夫婦でドナー登録をし、私は3年後にドナーに選ばれ骨髓提供をしました。提供するまでの間、テレビの密着取材を受けたのですが、良い機会だったのでその時のDVDを皆さんに見てもらいました。手術室で骨髓を採取する場面もあり、少し刺激が強いかと思ったのですが、皆さん真剣に見てくれました。ドナーに関心を持ってくれたことが本当に嬉しかったです。心より感謝いたします。ありがとうございました。

(骨髓バンク命のアサガオにいがた 高野由美子)

第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会 市民公開講座が開かれます

骨髓バンク・さい帯血バンクでの移植症例が2023年2月に5万例に達する見込みとなりました。

それを記念して歌手の岡村孝子さんをお迎えして市民公開講座が開催されます。詳しい内容は次号やホームページで順次お知らせします。是

非ご参加ください。

◆日時: 2023年2月12日(日)
15時30分(予定)

◆会場: 名古屋国際会議場 センチュリーホール及び Web 配信

◆申込: アンケートフォームによる
事前登録制

各地のたより

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

富山

富山マラソン受付会場で登録会

富山県では、富山マラソンのエントリー受付のEXPO会場でドナー登録会を毎年開催しています。今年も11月5日(土)にドナー登録の呼びかけと共に、「富山マラソン in 骨髄バンクランナーズ」のお声掛けをしました。今回の登録会では、51人の方の登録をいただき、骨髄バンクランナーズは、36人+関西から3人のタスキ持参のランナーさんも参加して合計39



人の方が11月6日(日)のマラソン当日「骨髄バンクにご協力ください」の黄色いタスキをなびかせながらゴールまで走り抜けてくださいました。ご参加いただいたランナーズの皆さまには心より感謝申し上げます。私たちは

これからも、患者さんや患者家族さんと共に走り続けるサポートランナーとして、マラソンに限らずスポーツを通じた普及啓発を続けていきたいと考えています。

ランナーズに参加していただいた方からのメッセージです。

『タスキをお借りし、無事完走することができました。ゴール近辺の沿道にて、会の皆さまにお声がけいただき、最後の力が沸きました。有難うございました。お力になれたか分かりませんが、皆さまの活動を応援しております。ドナー待ちの方々が、少しでも元気に、前向きになれますように。』

(富山県骨髄バンクを広げる会 堂田千里)

千葉

4年ぶりの「ちばアクアラインマラソン」で普及啓発活動



上段 木更津地区、下段 袖ヶ浦地区

コロナのため前回大会(2020年)は中止になり、11月6日(日)に4年ぶりに開催された「ちばアクアラインマラソン2022」で今回も木更津地区、袖ヶ浦地区の2か所でドナー登録説明会及び普及啓発活動を行いました。天気は快晴でやや暑い感じでした。

千葉骨髄バンク推進連絡会では、2012年に初めて開催された「ちばアクアラインマラソン」から千葉県業務課の支援を受けて大会会場2か所で活動を行ってきました。大会は2年おきに開催され、前回は中止になったので今年5回目になります。

木更津地区は業務課の副課長、副主査も参加下さり、千葉の会6人は業務課が木更津市民体育館前に手配くだ

さったテントをベースに、主に約500m離れた木更津警察署の西側のイベントエリアで、ティッシュとギフトオブライフの配布と登録説明を行いました。この場所は人出が一番多いところです。

活動結果は、説明者3人、ティッシュとギフトオブライフを合わせて1,000配布しました。

参加ランナーは、14,994人(うち、外国人137人)でした。男子の優勝者は2時間25分7秒で昼過ぎに帰ってきました。女子優勝者は2時間39分26秒で、その後は続々とランナーが続きました。熊谷俊人千葉県知事もハーフマラソンを完走(2時間21分9秒)されました。

袖ヶ浦地区でも5人が参加し活動しました。結果は説明者2人、ティッシュとギフトオブライフを合わせて500配布しました。ペンシルバルーン

で募金を行いました。大変盛況で昼食も交代で短時間で取ることになり、募金額は、10,764円にもなりました。

(千葉骨髄バンク推進連絡会 会長 梅田正道)

振込手数料が免除となる 寄付金振込口座(ゆうちょ銀行) を開設しました

払込料金と硬貨取扱料金が免除されるゆうちょ銀行口座を開設しました。募金箱のたくさん硬貨を振込いただく際にも手数料はかかりません。窓口で「料金免除の振込」とお伝えください(ATMのご利用では免除されませんのでご注意ください)。払込取扱票は協議会までご請求ください。詳しくはホームページ、または事務局までご連絡ください。

- ・金融機関 ゆうちょ銀行(郵便振替口座)
- ・加入者名 全国骨髄バンク推進連絡協議会
- ・口座記号番号 00100-4-421775

心からのご寄付に感謝申し上げます ●10月21日～11月20日(敬称略)

●一般	匿名 現金 10,000円	株式会社 ナルクス 現金 17,858円
豊田 さやか	現金 10,000円	株式会社 フクヤ 現金 2,630円
オークランド観光(株)松永尚忠	現金 10,000円	スノーバンク 現金 35,712円
藤波 敬子	現金 10,000円	●つながる募金 現金 15,500円
岩見 実	現金 10,000円	●キモチと。 現金 10,181円
阿蘇 克也	現金 2,500円	
匿名	現金 5,000円	
匿名	現金 200,000円	
匿名	現金 20,000円	
匿名	現金 10,000円	
匿名	現金 1,000円	
●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	現金 1,000円	
塩谷 泰人	現金 1,000円	
●募金箱		
株式会社 クスリのアオキ	現金 1,070,630円	
株式会社 マルト商事	現金 56,164円	

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会